

令和5年度春の特別ラン展におけるテーマ展示 「サッカー大国のラン」について

上野明楽・磯部実

2024年2月17日（土）から2月25日（日）まで開催された春の特別ラン展の空中デッキで実施したテーマ展示について報告する。

今年度は広島ของサッカースタジアム「エディオンピースウイング広島」の新スタジアムの開業を記念して、ランを用いた装飾をした。その中で、2024年2月時点でのFIFAランキング上位15チームの国を「サッカー大国」とし、各国にまつわるランを解説、展示した。また、地元のサッカーチームであるサンフレッチェ広島のイメージカラーである紫色にちなんだ花色のランを用意した。

また、紫色の昆虫やサッカーボールのような虫ということで広島市森林公園こんちゅう館より、ドミノローチ、ハナカマキリの生体と紫色の昆虫標本を借用し展示した。

展示花の紹介

紫色の花の展示

昨年度のテーマ展示に使用した青色コチョウラン（ブルージーン）を筆頭に、当園で栽培している紫色に近いランを展示した。（写真1）。

デンドロビウム属では、パルブルム種（*Den. parvulum* subsp. *minutum*）、ビオラセウム種（*Den. violaceum*）、ナナラウティコラ種（*Den. nanalauticola*）の3種類3株を展示した。いずれも紫色に近い花色であり、花持ちが良いので展示の際には重宝する。テリミトラ属ではパウシフロラ種（*Thel. pauciflora*）、ヌダ種（*Thel. nuda*）の2種類3株を展示した。

アッペンディクラ属ではマリンダンゲンシス種（*App. malindangensis*）を1株展示した。本種は色合いが非常に美しいランであるが、花がとても小さく、そのままでは見えづらいため、拡大した写真を解説文に添付した。

ファレノプシス属では前述の園芸品種のブルージーン（*Phal. Blue Gene*）を2株展示した。本種は2022年から販売がされるようになった

遺伝子組み換えのコチョウランであり、ツユクサの遺伝子をコチョウランに入れることで、従来のコチョウランにはなかった濃い青色の発色をする花となっている。

サッカー大国のラン

FIFAランキング上位15位は大きく分けてヨーロッパ、中米、南米、アフリカ、アジアと区別できたので、その部分に当てはまるランと詳しい自生地をランキングに当てはめて展示した。

ヨーロッパのラン オフリス属（*Ophrys*）

オフリス属はヨーロッパに広く分布するランであり、花の形状や匂いなどを本物のハチそっくりに擬態してオスバチを誘うことが知られている。今回はヨーロッパのサッカー強豪国フランスにも分布のあるボンビリフロラ種（*Ophrys bombyliflora*）、スペキュラム種（*Ophrys speculum*）の2株を展示した。本属は夏季休眠型のランで、開花期が1月から4月頃となっている。本属は花の形状や送粉者を騙す工夫に富んでおり、多くの来園者に興味を持ってもらえる。ラン展の時期に合わせて開花させるためにも、今後は積算温度を測り開花調節を行いたい。（写真2）。

英国のラン オンシディウム属（*Oncidium*）

本属の原産は南米のコロンビアだが、イギリスのアレクサンドラ女王を記念して名づけられたとされているアレクサンドラエ種（*Oncidium alexandrae*）1株を、英国代表のランとして展示した。

会期中の開花を予定していたが、つぼみが折れてしまい開花しなかった。来園者との接触が原因と考えられることから、花径の長いものを展示する際にはある程度人に当たっても折れないよう支柱等で補強しておく必要があると強く感じた。

中米のラン レリア属（*Laelia*）

本属はカトレア属に近縁で、花径が長く伸びることが特徴である。原産国であるメキシコ代表の札を付けて1株展示した。

会期に合わせるように2週間ほど早く栽培温室より温度が高い大温室に移していたスベル

ビエンス種 (*L. superbiens*) が見事に開花したため、今回の目玉の一つとなった。通常は花径長が2 m近くとなり、頭上高くで咲くため、大きな花でも近くで見ることが難しいが、今回は弓なりに花径を曲げることで、独特な唇弁の観察が可能になった。今後もこのような手法での展示をしたい。(写真3)。

中米のラン ネオムーレア属 (*Neomoorea wallisii*)

本属は中米に生育する1属1種のランである。1枚の葉の大きさは当園で保有するラン科植物の中でも最大級であり、こちらも今回の展示の目玉の1つとなった。(写真4)。

南米のラン カトレヤ属 (*Cattleya*)

ラン科を代表する花であるカトレヤ属は主に中米から南米にかけて分布しており、サッカー大国ブラジルに自生するものが存在するため、ブラジル代表の札を付けてコッキネア種 (*C.coccinea*) 3株、コロンビア原産のルデマニアナ種 (*C.lueddemanniana*) にはコロンビア代表の札を付けて3株を解説文と一緒に展示した。(写真5)。

南米のラン

プラティステレ属 (*Platystele*) はラン科中最も小さい花を咲かせる種類の1つであるが、1輪の色合いや透明感他は他の花にはない個性的なものであり、また、1輪の寿命は短い、続けて咲くことから虫眼鏡を用意してエクアドル代表の札を付け、オキシグロッサ種 (*Platystele oxygossa*)、ポルティラエ種 (*Platystele portillae*) を2株展示した。(写真6)。

アフリカのラン

アフリカの中でも当時 FIFA ランキングに入っていたガーナに分布するランがあり、アングレカム属よりディスティクム種 (*Angraecum distichum*)、レオニス種2株 (*Angraecum leonis*) ジュメレア属 (*Jumellea comolensis*) 1株、バルボフィルム属2種類 (*Bulbophyllum purpureorhachis*) (*Bulb.cochleatum* var.*bequaertii*) を1株ずつ展示した。(写真7)。

アジアのラン

日本は近年サッカーの国際試合で勝つことが増えるなど、勢いがあり、FIFA ランキングも15位にいたことから、今回は日本を含めたアジアのランを特集して展示した。

日本からはシンビディウム属のシュンラン (*Cymbidium goeringii*) を1株展示した。タイやカンボジアからはバンダ属、パフィオペディルム属、バンドプシス属を展示した。バンドプシス属に関しては大型の着生ランであり、今回の展示の目玉の1つになった。(写真8、9)。

昆虫の展示

サッカーをテーマにした展示ということで、サッカーボールに似た昆虫を探したところ、広島市森林公園こんちゅう館より、ドミノローチを借用することができたため、別名ランカマキリと言われるハナカマキリと一緒に展示した。

また大温室ロビーにはサンフレッチェ広島のイメージカラーである紫色にちなんだ昆虫の標本を借用し展示した。(写真10)。

所感と展望

今回のラン展のテーマを決める際に、前年度のテーマが青色のラン特集だったため、被らないよう案を出すのに一苦労した。一方で、昆虫の展示は親子連れに人気であり、機会があればまたこういった展示を行いたいと感じた。

ただ単にランの花を見てもらうだけでなく、こんな面白い、興味深いものがあつたのかという新鮮な気づきをしてもらうことができたと思う。これからも特別ラン展の展示を楽しんでもらうよう情報収集に励むとともに、様々な意見を取り入れていきたい。

謝辞

この度は貴重な標本及び生体を借用させていただいた広島市森林公園こんちゅう館様にこの場を借りて感謝申し上げます。



写真1 紫色のランと解説の展示



写真2 ヨーロッパのラン オフリス属の展示



写真3 中米のラン レリア属の展示



写真4 中米のラン ネオムーレア属の展示



写真5 南米のラン カトレヤ属の展示